



## あっぱれ日本の割烹着

Text by Kyoko Odamura (アイルランド・ダブリン市)

アイルランドで重宝されているもののひとつに、日本ならではのものがあります。それはなんと割烹着です。その理由とは……。

貧国だったアイルランドは、この20年間の経済成長でぐんと豊かになりました。人々は多国籍レストランで気軽に食事を味わうだけでなく、料理自体を楽しむようになったのです。

アイルランドではソースで煮込むオープン料理、少し多めの油をひいたフライパンでの炒めものや焼きもの、ジャガイモや肉、魚を揚げた料理が多く、衣服の汚れを防ぐのにエプロンは必須。ところがそのエプロンは体の前面だけを覆う文字通りの前掛けです。これではエプロンでカバーされていない部分は当然、汚れやすくなってしまいます。ここに日本の割烹着が、西洋のエプロンより優れ、アイルランド人や在外国人を大きく感心させる秘密があるのです。

それは割烹着が袖付きであること。丈も長めの割烹着は衣服をすっぽりと覆ってくれるので、飛び散るソースや油で服が汚れる心配がないのです。また絞

った袖口がゴムで締まっており、水を使うときには袖を押し上げれば袖口は濡れません。おまけに冬だと割烹着のおかげで暖かい。さらに、日本の割烹着には料理が楽しくなるようなお洒落なデザインが豊富にあることも魅力です。

「一度、割烹着の便利さを知ったらこれが最高。もうエプロンなんて使わないわ」とは、知り合いのアイルランド人の熱きコメント。

自分で手作りする以外、アイルランドではまだ入手不可能な割烹着。そのよさを知ったアイルランド人や在外国人が、日本へ行く人にリクエストするのは割烹着というのにはこうした理由があるのです。

### 織田村恭子 (おだむら きょうこ)

1991年よりアイルランド在住。日系企業勤務のかたわら、旅行マガジン、エアライン機内誌、その他多くの雑誌に、記事、エッセイを執筆。ジャンルは料理、ダンス、サイコセラピー、社会問題など。多岐にわたる。趣味はタンゴ。



## 春の到来を告げるお花見と日本酒

Text by Miyuki Lynn (中国・香港)

「今年はいつ行ったら桜が見られる？」と旧正月休みが明けると香港の友人に聞かれます。日本政府観光局(JNTO)の調べによると2015年の訪日外国人数は過去最大の1,973万7,000人。国別の訪問者では香港人は第4位で152万4,300人。香港の人口が約730万人なので、単純計算をすると4人に1人が日本に行ったことになります。

飛行時間4時間弱の日本は香港人にとっては身近な存在。ちょっとそこまでお花見&お買い物に!と遊びに行ける距離ですが、わざわざ日本に行かなくとも日本の桜を楽しめるところがあります。それは香港一の繁華街、尖沙咀(チムサーチョイ)にある450店舗以上が入る巨大ショッピングモール、ハーバーシティ内。毎年3月に「桜花祭」が開催されているんです。

2016年は桜以外にも石川県の酒造メーカーと漫画家のコラボ「Sake×Manga Exhibition」のイベントが開催されました。22人の著名な日本の漫画家が22の酒造メーカーの日本酒を飲み、その味をあらわす漫画を描いたものがラベルになりました。海外では初

この展示の説明文は香港の公用語である中国語と英語で表記。もちろん見るだけではなく、飲むこともできます!



期間限定で開設された居酒屋には香港で飲むことのできない種類も含め、約100種類の日本酒から10種類を試飲することができます。120香港ドル(約1,700円)でテイस्टینگにミニ瓶のお持ち帰り付き。しかも売上金は「東日本大震災ことも未来基金」に寄付されるので、いいことをして、お酒を飲み、お花見も楽しめるというハッピーなイベントなのです。

今後は美味しい日本酒を求めて石川県に行く香港人旅行者が増えるかもしれませんね。

### リン美雪 (りん みゆき)

1994年より香港在住。元キャセイパシフィック航空のCA。「All about」の香港ガイド、「Abroad」の家族旅行ガイドのほか、旅や教育関連メディアへの寄稿多数。共著に「台湾・香港deワーキングホリデー」。



の1は、なんらかの動物を飼っています。大都市では小型犬を飼っている人もいますが、圧倒的に猫が人気です。これは宗教センターによると、『イスラムの予言者ムハンマドが、狂犬病が流行していた当時の言葉を憂慮して「健康のために犬を避けよ」と言ったことからイランでは犬を「不浄のもの」として忌み嫌う風習があった』こと。またムハンマドの言行を記録した『サヒーフ・ブハリム』には『猫を虐待した女性が地獄に落ちたと書かれているうえ、ムハンマドが猫を飼っていたという伝承』があるのも、猫を好む人が多い理由のようです。

トルコでは動物が殺処分されることはほとんどなく、特に猫は人間とうまく共存しています。ペットショップもなく、インターネットの個人取引、あるいは保健所にもらいにいくのが主流となっています。



## アメリカ

保護施設から引き取るのが主流ね！

部外はもちろん都市部でさえ、なにも飼っていないほうが珍しいくらいですね。ペットの物件も豊富です。飼っているのは、やはり犬や猫が一般的。たまに鳥やウサギを飼っているという印象です。スペースに余裕のある住宅事情もあって、大型犬も人気で複数飼っている家庭も多いです。最近ではエコブや実益をかねて、都市部でも卵を産む鶏を飼うことが珍しくありません。

また、州によってはペットショップやブリーダービジネスが禁止されているところもあるので、犬、猫の場合はシェルターと呼ばれ保護施設から引き取ることが多いよう

です。もちろんライセンス登録や予防接種は義務づけられています。ドッグランを含め犬を遊ばせられる公園は充実しており、フンの始末用袋を常備しているケースもしばしば。あと、手綱をつけた猫や鳥と公園でくつろぐ姿は、日本ではあまり見かけない光景かもしれませんね。



## 香港

シッターの充実ぶりはすごいわ！

マンションが多く、狭いという住宅事情から室内で飼える猫や小型犬、鳥や金魚が人気です。夫婦や家族だと犬、独身の女性は猫、年配の方は鳥と好みが分かれています。なかでもお年寄りの、九龍太子園園街雀鳥花園に自分の鳥を鳥かごごともっていきみんなにみせびらかす、という趣味が観光スポットになるほど賑わっています。

香港では国外へも含め引っ越しが多いので、ペット関連手続きの書類代行や、乗り物の手配などを一手に引き受けるペット・ムーバーのサービスや、忙しいビジネスパーソンの出張中に預かってくれるペット・シッターもいます。このサービスは部屋のサイズが選べるほか、追加料金を払えばスミミングやグルーミングまでしてもらえ、飼い主が出張先からでも見られるようにSNSサイトに写真をアップするサービスまであります。



## タイ

放し飼いが基本だから……

日本と同じように、犬や猫、小鳥、観賞魚